

第472回鉄鋼流通問題懇談会

2026年2月4日（水）14：30

茅場町「鉄鋼会館804号室」

議 題

1. 配布資料説明（全鉄連）
2. 全鉄連情勢報告
 - （1）地区の状況
 - 東京（鉄流懇・提出資料参照）
 - 東京、大阪、東北、新潟、北陸地区概況報告
 - （2）総括：井上全鉄連会長
3. 意見交換
4. テーマ「物流対応策と課題」
5. 総括：赤木鉄流懇会長
6. 次回会議予定

2026年4月23日（木）14：30～ 於：茅場町「鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟・第一会議室」

次回テーマ：「災害対策・BCP対策について」

発表項目	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	メタルワン	住友商事グローバルメタルズ	阪和興業	エムエム建材
1. 需給動向（景況感）	人手不足及び建設費高騰もあり、全国的に建築建材分野は着工件数の低調が継続しており、需要は引続き低迷中。製造業向けも民間設備投資の先行指標となる機械受注は3ヶ月ぶりに増加も、先行きについては製造工業生産予測調査において、低位予想となっている。 価格面では原材料値上げもあり、メーカーが値上げを打ち出し、下げ止まり感がでつつある。市況は横這いで推移。	2026年11月末薄板三品在庫（速報値）は、前月比0.2%減の393万トンとなり、2ヶ月連続で400万トンを下回る結果となった。在庫内訳はメーカー在庫が前月比6万6千トン減の163万5千トン、問屋在庫が同5万9千トン減の82万6千トン、コイルセンター在庫が同ほぼ横ばいの146万7千トンとなった。在庫率は3.02ヶ月となり前月比0.16ポイント増加した。 各需要分野ともに、稼働状況は低調に推移しているものの、円安による輸入材の値上がりや、電戸材の値上げ期待感から、市況については底値を探る状況が継続している。品種によりバラつきは見られるが底打ちは近いとの印象。	全国厚中板在庫(2025年10月末)は338千トンで前年同月比90.2%に減少。2025年5月から5ヶ月連続の在庫減、在庫率は全国ベースでは前年比240.8%となった。在庫率減少傾向にあり、適正在庫率と言われる200%に近づいている。 需要に関して、分野・地域を問わず極めて厳しい状況が続いており、先行き不透明な状況にある。特に、建築では資材費等の高騰や人手不足による施工能力の制約により需要が低調、建機分野は25年度は国内、輸出ともに前年比減少(約3%)。造船分野は好調も、建築分野をはじめ、建産機、店売り分野の全体的に荷動きが悪いこともあり、供給面でタイト感を感じられない。	【棒鋼】普通鋼電工工業発表の2025年11月の国内鉄筋用小形棒鋼の出荷量は46.7万トンとなり、前年同月比▲10.2%、18ヶ月連続でマイナスとなった。現場の人手不足や資材の高騰等により、機能的に工事が停滞し引合いも弱い。一方で生産量の減少により、メーカーのコスト上昇に拍車がかかっており、相次いで値上げの動きは見られるが、肝心の需要が伴わない為、需要家からの反発が強い。市況は強含み横ばい推移が続いている。 【形鋼】2025年10月、中小規模案件の着工が前月比10%程度増加に転じた事もあり、各流通ではSPOT取引および一次加工を含めて忙しかったとの声も多く聞かれたが、11月の中旬を過ぎると急激に引合いの数が減少し、12月から閑散とした状況となっている。棒鋼同様にメーカーからの値上げ圧力が強く、流通は販売価格の見直し、安値の払込に不透明な覚悟で臨んでいる。
2. 需要産業動向	【建築土木】 25年11月の新設住宅着工戸数は、前年同月比17.2%減の5万9,524戸で減少となった。内訳は持家は1万7,901戸で同1.0%減、貸家は2万5,253戸で同17.9%の減。分譲住宅も1万1,6103戸となり同28.48%の大幅減となった。 【自動車】 25年11月の国内新車販売台数は36.9万台で前年同月比1.7%増。乗用車は28.1万台で累計前年同期比2.1%減、軽自動車は10.5万台で同4.9%増となった。 【建産機】 25年11月の建設機械出荷金額は内需は975億円で前月比13.9%の増。外需は1,963億円で同2.1%の増。地域別では地域別では9地域中4地域が増加、その中でも欧州、鉱山機械が好調な中米が大きく増加した。 【造船】 25年11月末の手持ち工事量は2,898万総トンで前月比3.6%の増加となった。	2025年11月の自動車国内販売は34万2千台（前年同月比5.6%減）と5ヶ月連続のマイナス。乗用車が28万1千台（同7.5%減）、トラック6万台（同5.0%増）となった。 11月の民生用電気機器の国内出荷金額は、2,061億円（同0.4%増）と3ヶ月連続の増加となった。ルームエアコンは3ヶ月連続のプラス、電気冷蔵庫は同2ヶ月連続のマイナス、電気洗濯機は2ヶ月連続のマイナスとなった。民生用電気機器全体では、空気清浄機がインフルエンザの流行もあり3ヵ月連続の二桁増となった他、ルームエアコンの好調も継続しており、前年同月を上回った。 国土交通省より発表された11月の新設住宅着工戸数は6万戸（同8.5%減）と2ヶ月ぶりのマイナスとなった。持家、貸家、分譲住宅ともに減少した。	造船業界は引き続き好調である。手持ちの工事量について国内造船業者は3~4年程度の仕事量を確保している状況。世界的にも海上輸送量の増加や過去に建造された船舶の代替需要により今後も建造需要が増加予測。また日本の経済安全保障の強化のため造船は戦略分野の位置づけになっており官民一体の戦略的投資で2035年に建造量を倍増させる方針。 建築業界では、建築着工床面積も変わらず減少傾向。前期に続き2025年度の鉄骨需要は350万トン前後の低位の見通し。人手不足による工期の長期化/物件の見直しも常態化しており来期も同様の厳しい状況が続くことも想定される。 建設機械業界の10月の出荷金額は国内外合計2779億円であった。内需は4ヵ月連続の減少、外需も小幅な上下はあるが横ばい続き、来期も機種により回復見込まれるものもあるが横ばい予測。産業機械業界の11月の受注は前年同月比13.8%増と7ヵ月連続の増加。内需は減少も、外需は31.2%増で5ヵ月連続増加。外需では、原動機(26.2%減)が減少したものの、産業機械(52.2%増・2ヵ月連続)、工作機械(12.1%増・9ヵ月連続)などが増加した。	【棒鋼】国交省発表の2025年11月新設住宅着工戸数は59,524戸で前年同月比8.5%減、そのうちマンションは5,551戸で同29.7%減、戸建て住宅は10,389戸と同2.6%増となった。 【形鋼】国交省より発表された2025年11月度着工統計からの全国鉄骨推定需要量は22.4万トンとなり、年ベースの換算量でも346万トンレベルまで落ち込んでしまった。
3. 輸出入動向	2025年11月度鋼管輸出量 継目無鋼管：1万1,693トン（前年同月比44.3%減） 溶接鋼管：1万0,354トン（前年同月比40.0%減） 2025年11月度鋼管輸入量 継目無鋼管：1,161トン（前年同月比1.0%増） 溶接鋼管：1万0,783トン（前年同月比8.8%減）	2025年11月の薄板三品輸入量は29万2千トン（前年同月比2.9%減）であった。主要製品別では熱延が10万2千トン（同15.2%減）、冷延が5万8千トン（同20.7%減）、亜鉛めっきが13万3千トン（同22.6%増）となった。11月末の岸壁在庫は13万3千トンとなり、前月比で6千トン減少した。 国別では台湾からの輸入は全品種前月比減少となった一方で、韓国からの輸入はめっき材のみ前月比増加した。また、中国からの輸入は全品種前月比で増加した。AD適用前の駆け込みによる上昇と見られ、特にGIの輸入量が大幅に増加した。11月の中国めっき材輸入量は5万トンを超え、月あたりの輸入量としては過去最大規模となった。	2025年11月の厚板の輸入量は厚板3.6万トン(前年同月比25.4%減)。2ヵ月連続の減少。 韓国からの輸入量：3.3万トン 中国からの輸入量：0.04万トン 台湾からの輸入量：0.23万トン 2025年11月の厚板輸出量は20.8万トン(前年同月比16.7%増)。5ヵ月ぶりの増加。 韓国への輸出量：7.4万トン 中国への輸出量：4.6万トン 台湾への輸出量：1.3万トン ASEANへの輸出量：6.0万トン	◆直近の実績(25年11月)にみる輸出入状況は以下の通り。 【輸出】 形鋼：49千トン（前月比+12%、前年同月比▲10%） 棒鋼：10千トン（前月比▲27%、前年同月比▲58%） 【輸入】 形鋼：2.9千トン（前月比▲84%、前年同月比▲83%） 棒鋼：2.2千トン（前月比▲26%、前年同月比+51%）
4. 海外市場動向	25年12月の平均WTIは57.94ドル/バレルとなり、前月比-.63ドル(-2.9%)。 原油価格の中心的な見通しとしては、今年も原油需給の緩和した状況が継続し、原油価格の低迷が続くと見込まれる。 昨年のOPECプラスによる大幅な減産縮小などを受けて既に原油需給は緩和した状態にあるうえ、今年4月からはOPECプラスによる減産縮小の再開が予想される。また、米政府主導によるベネズエラの増産観測も原油需給緩和への思惑に繋がりやすいと予測。	世界鉄鋼協会がまとめた世界70カ国の11月の粗鋼生産量は前年同月比4.6%減の1億4,010万トンとなり、前年同月を下回った。1-11月累計では前年同期比で2.0%減となった。11月の中国粗鋼生産量は前年同月比で10%以上の減少となっており、全体を引き下げる結果となった。各国熱延市況はやや強含みで推移。中国熱延市況は原料コストと欧州地域市況の上昇、旧正月前の駆け込み需要への期待等を背景として堅調に推移しているものの、需給バランスは改善されておらず、足元の需要を踏まえると旧正月前の大きな駆け込み需要も期待できないと考えられる。	中国市況においては、不動産不況など建設需要の低迷が長期化、秋の需要期も活気を欠いた。冬場の不要期に入り需要は減少傾向。需給は緩く、内需不足を補うために輸出で数量を補う動きは継続見込み。中国の11月の粗鋼生産量は6987万トンと前年同月比10.9%減少し7ヶ月連続で減少。約2年ぶりに7000万トンを下回った。通年では9.7億トン程度と2019年以降の10億トン割れとなる見込み。 一方で、内需の減少を背景に鋼材輸出は1.2億トン弱と過去最高となる見通し(前年同期比7.5%増加)。韓国は造船業界の受注残は多いが人員不足、工期の長いLNG船建造が多く、厚板消費ピッチは上がらない状況。 各国の保護貿易化や中国商務省からの輸出許可制の施行の動きもあるが、厚板の需給市況への影響は不透明な状況。	2025年12月の中国粗鋼生産量は6,987万MTで前年同月比▲10.9%となり、6ヶ月連続の減少となった。不動産の低迷や冬場の季節的要因が重なったほか、内需の減少によるメーカーの生産意欲の減退が見られる。一方で同国の鋼材輸出量は、月間過去最高の1,130万トンを記録している。これは2026年1月からの鉄鋼輸出許可制度導入前の駆け込み需要や中東、南米等への輸出量が拡大したものの。

鉄鋼流通問題懇談会（2026年2月）

発表者	メーカー J F E スチール
発表項目	
1. 需給動向（景況感）	<ul style="list-style-type: none"> ・12月の日銀短観では、企業の景況感を示す業況判断指数（DI）の大企業・製造業の指数が、前回（9月）調査比+1の+15と、若干良化した形となった。先行きも+3の+15と、改善を見込む方向になっている。 ・家計部門では、10月の小売業販売額が前年同月比+1.7%と2ヵ月ぶりの増加。総消費動向指数は+0.6%と17ヵ月連続の上昇。 ・製造部門では、11月の四輪車生産が前年同月比▲7.5%と5ヵ月連続の減少。10月機械受注（民需）は前月比+7.0%と2ヵ月連続の増。 ・建築部門では、11月の全建築物建築着工床面積が722万㎡（前年同月比▲14.5%）となり、3ヵ月ぶりの減。 <p>（海外） AI関連投資の急増や各国・地域の財政・金融政策、企業の米関税への適応力などが関税影響を相殺し、世界経済は堅調に推移。 米国：関税引き上げによる悪影響は当初懸念より限定的でAI・ハイテク分野中心に内需は底強く成長率は安定。ただし高水準の関税率とインフレ解消の遅延、移民の制約などが今後の景気の下押しリスクとして残存。 欧州：一部の国（仏・伊など）における財政支出の削減が域内全体の成長の下押し要因となる見込み。 中国：インフラ投資で景気を下支え予定も、米国向け輸出における高水準の関税率、継続的な不動産部門の不振・調整などが人口動態などが構造的な成長率の下押し要因として影響が続くとみられる。。</p> <p><国内鉄鋼需給> （生産） ・12月の粗鋼生産（速報）は658万tと前年同月比で9ヵ月連続の減。 （出荷） ・10月の普通鋼国内向け出荷は298万トンと前年同月比で3ヵ月ぶりの減。輸出向け出荷は168万トンと2ヵ月連続の減。 （在庫） ・10月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は506万トン（前月末比▲0.5万トン）で2ヵ月ぶりの増。 ・11月末の薄板3品在庫は393万トン（前年同月比+1万トン）で3ヵ月連続の減。 ・8月末の厚板シャー在庫は34万トン（前年同月比▲3万トン）で2ヵ月ぶりの増。</p>
2. 需要産業動向	<p>〔建 築〕 ・10月の新設住宅着工戸数は7.2万戸（前年同月比+3.2%）で7ヵ月連続の減。持家は減、貸家・分譲いずれも増。 ・10月の非住宅着工床面積は309万㎡（前年同月比▲8.0%）で5ヵ月連続の減。用途別では、店舗・工場・倉庫いずれも減。</p> <p>〔自動車〕 ・11月の国内販売（輸入車除く）は34.2万台（前年同月比▲5.6%）で5ヵ月連続の減。 ・10月の完成車輸出は38.8万台（前年同月比▲0.6%）で2ヵ月連続の減。 ・10月の四輪車生産は81.4万台（前年同月比▲0.3%）で2ヵ月連続の減。</p> <p>〔造 船〕 ・11月の造船受注量は61.2万GT（前年同月比2.6倍）。手持工事量は2,898万GT（前月末比+0.1%）で5ヵ月連続の増。</p>
3. 輸出入動向	<p>〔輸 出〕 ・11月の全鉄鋼輸出（速報）は240万トン（前年同月比▲3.5%）で2ヵ月ぶりの減。向先別では、中、韓・ASEAN向け全てで減。 〔輸 入〕 ・10月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は42万トン（前年同月比▲15.3%）で2ヵ月連続の減。</p>
4. 海外市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ・11月の世界粗鋼生産（推計含む）は6,818万トン（前年同月比▲4.6%）で3ヵ月連続の減。 ・12月の中国粗鋼生産（速報）は7,349万トン（前年同月比▲10.3%）で7ヵ月連続の減。 ・12月の中国鋼材輸出（速報）は1,130万トン（前年同月比+29.2%）で3ヵ月連続の増。 ・中国市中在庫は、1月16日時点で865万トン（前年同期比+8.7%）。粗鋼減と共に在庫も減少傾向にあるが依然高位。